



横浜F・マリノスカップ 電動車椅子サッカー大会

この大会を通して、多くの方々に電動車椅子サッカーの魅力伝え、地域社会の障がい者スポーツに対する理解度、関心度の向上に繋げる。また、選手に日頃のトレーニングの成果を発揮する場を提供すると共に、大会を通じて仲間とふれあい、そして楽しむことで地域社会との繋がりを実感すると共に、アスリートとしての自覚を持ってもらうことで、選手としての更なる成長及び競技の普及・育成を図ることを目的としている。今回会場となった子安小学校は、以前クラブの練習場があったとても関わりの深い場所である。今後20回、30回と継続して大会を開催し、皆が毎年目標とするような大会にしていきたい。

活動場所 : 横浜市立子安小学校体育館

取組テーマ : ダイバーシティ（共生社会）

協働者 : 企業／学校／行政／電動車椅子サッカー選手／チーム関係者

協働者名 : ジヤトコ株式会社、株式会社ツクイ、イリソ電子工業株式会社、横浜市立子安小学校、横浜市中心図書館、横浜市立篠原中学校サッカー部、横浜市立城郷中学校サッカー部

活動で工夫した点

今回初めてジヤトコ株式会社の皆様にご協力いただき、選手の車いすのフロントバンパーの取り付け、取り外しを行う『ジヤトコビット』を設けた。選手の方からは「まるでF1ピットのような！」と大好評で、選手のフロントバンパー脱着の負担からの解放、選手のスタンバイ時間の大幅な短縮による時間効率化など、大会運営にも大きなプラスがあった。資金だけではなく企業との新しい協働のカタチを創ることができた。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

体育館の空調（暖房）が不十分であったこと。小学校にあるジェットヒーター2台を借用して使用し続けたものの、とても広い体育館ではそこまで温まらず、障がい者の方々にとっては厳しい環境であった。控室として使用した各教室は温まっていたため、選手の方々は試合がない時は極力控室で休息を取っていた。重度の障がいを持つ方でも安心して競技に臨める会場の整備・確保は今後も大きな課題である。

クラブや地域の活動後の変化

健常者では当たり前前かがみで前にならなかつたり、普段気にしないような細かなところまで気にしたりと、選手たちと同じ目線になることで意識の変化があった。また実際に電動車椅子サッカーを観るのは初めてという方も多く、ゴールやパスワーク、激しくボールを奪い合うシーンなどでは歓声が上がっていた。会場にいる方々は自然と電動車椅子サッカーの魅力に惹かれ、最後は選手・スタッフ・観客全ての人が笑顔になっていた。



協働者の声

ジヤトコ株式会社の方々の声：マリノスさんからの声掛けで、モノづくりの会社の自分たちができることは何か、を1年かけて考えました。選手や介助者のみなさんが苦勞されているガードの脱着を行う「ジヤトコビット」、「ガードの歪み修正治具」は、初めての取組みとしては大成功でした。その他、電動車椅子体験会やチームのサポートなど、全面に渡り協力させて頂き、参加者と交流も生まれ、サポートする側の私たちも喜びと達成感を得られた大会でした。

参加者の声

今大会は体育館で開催された事もあり寒さがかなり厳しかったですが、バリアフリーなのと待機場所が暖かったのが助かりました。大会の内容としてはとてもよかったと思います。試合中も体験会が行われ会場が賑わっていて、試合も全国トップクラスのチームが集まりとても白熱した試合を出来、楽しかったです。ジヤトコビットもレースカーのようにバンパーの作業をして下さったので本当に助かりました。また来年も楽しみにしています！

活動の「ここぞ！」というPRポイント

選手、父兄、企業、クラブで「実行委員」を作り大会の準備をした。特に、選手、保護者でなければ気づかない意見を取り入れたことで大会運営がスムーズに行えた。電動車椅子体験ゾーンもこの大会の魅力。

補足

この大会も、全国の電動車椅子サッカーチームに浸透してきたようで、この大会に参加したいと要望も多々来ています。会場、日程の問題で現在の実施方法（10km：6チーム、6km：4チーム）となっていますが、将来的には、チーム数も増やしもっと大きな大会にして来たいと思います。また、電動車椅子サッカーを見たことがない方々に是非会場に来て頂き選手の熱いプレーを見て頂ければと思います。